

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3171400447		
法人名	医療法人 至誠会		
事業所名	グループホームひまわり関金		
所在地	倉吉市関金町関金宿1886		
自己評価作成日	平成25年度7月14日	評価結果市町村受理日	平成25年9月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.pref.tottori.lg.jp/dd.aspx?menuid=33690
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人鳥取社会福祉評価機構		
所在地	鳥取県鳥取市良田39番地		
訪問調査日	平成25年7月30日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

小高い山丘に建ち、鳥の鳴き声が聞こえたり、自然に囲まれた静かな環境である。開設9年目となり、経験豊富な職員が多く、なじみの関係も出来ている。認知症実践者研修に参加し、医療との連携に努め、地域の協力の元避難訓練を行ったり入居者様が地域でその人らしく生活出来るよう、毎日の暮らしに役割・レクリエーションを取り入れ楽しく生活して頂けるよう行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人の理念とは別に「自由で普通の暮らしと暮らしの中にそれぞれの役割が有る」という事をグループホームの理念として掲げて掲示し、職員は毎日申し送り時に唱和しており、理念は理解されている。地域との交流も積極的に行なっており、ボランティアの受け入れ、避難訓練への参加、野菜の差し入れ等も有る。介護計画の立案も本人やご家族の意向に合わせた細かい計画になっており、毎月の評価もなされている。ご家族アンケートの回収率も94%と高く、ほぼ全てのご家族が提供されるサービスに満足している様子が伺え、食事時の介助も優しく声をかけながら丁寧に行なっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念をもとにGH独自の理念を分かりやすい言葉で表し玄関、事務所等に掲示し毎朝申し送り時に理念を復唱し、日々実践出来るように心がけている。	普通の暮らしが出来る事と役割を持つ事を大切にしており、申し送り時に理念を復唱して常に職員の意識付けを図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	行事の回覧や新聞発行し事業所の様子がわかるように努め、地域の行事(研修・グランドゴルフ大会)に参加したりGHの避難訓練に協力して頂いたりと双方向の交流を行っている。	地元や学生のボランティアを受け入れており、近所の方からの野菜等の差し入れも有り、地元行事にも参加して地域との交流を積極的に図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	山守小学校の絵本教室へ職員が参加し生徒との交流をもったり、地域包括主催の認知症サポーター研修に地域の方、入居者家族、職員も参加し認知症の人の理解に努める。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	サービス状況や取り組みを報告し話し合いを行っている。会議での意見を職員と再度話し合いサービスの向上に努めている。又会議録を掲示板に貼り全職員、家族に見るようにしている。	運営推進会議では施設の現状や事故報告を細かく説明しており、参加者からも多くの意見が出されており、その意見を職員間で検討している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村には、事故の報告、入退所の連絡、運営推進会議の報告、生活保護担当者の方とは、入居者様のことで話し合い、協力関係を築よう取り組んでいる。	メール等で市との意思の疎通を図り、事故報告、生活保護関係での打ち合わせ等を行っており、広報誌も配布して協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	緊急やむを得ない場合以外は身体拘束をしないケアに努め、拘束について日頃より話し合いを持ちサービスの向上に努めている。夜間は防犯上玄関を施錠するが、契約時に説明をしている。	身体拘束をしないケアの研修は年に1回以上実施しており、ミーティング等での伝達研修も行い、職員は身体拘束の弊害を理解している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修、内部研修に参加しミーティング等で勉強をして周知徹底を図る。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年1回に内部研修があり、学ぶ機会をもっている。実際入居者の方で利用されておられる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に説明しているが、入院等により退所となる場合も再度説明を行っている。空床状況を考慮しながら、優先的に帰ってこられるよう配慮している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会の時に第三者委員さんを含め話し合いを持って頂く様家族会を予定、倉吉市相談員2ヶ月に1回訪問、利用者様の意見を出せるように行っている	年に1回は独自にご家族アンケートを行なってご家族の意見を聞いており、ご家族の意見を取り入れるようにしている。相談窓口も広報誌に繰り返し記載している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回職員の話し合いを行っている。代表者を囲んで話し合い場もあり。管理者と職員との面談も行っている。	管理者は年に2回は職員との個別面談を行なって意見を聞いており、新規入所者の受け入れの時にも職員の意見を聞いて判断している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事評価を年2回行い、担当、役割、向上心を持って働けるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部、内部、自己啓発での研修で多くの職員が学べる機会を作っている。中途採用職員も法人が行う新人研修に参加する様にし、研修体制を充実させている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	7月13日広島県認知症ケア研修発表に参加しグループホームの取り組み状況を参考にしサービスの向上に努めている。GHの新聞を(たより)送っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居間もない方には早急に状況を把握するため、全職員が積極的に関わるようにしている。本人の要望や不安がないか話を聞き、本人との関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約する際に家族、入居者様に困っている事はないか話をゆっくり聞くように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、本人、家族の思いや状況等を確認し必要なサービスにつなげている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の方は人生の先輩であるため、教えて頂いたりする場面をなるべく多くつくり一緒に何かをするという関係に努め、こだわられている部分を大切にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には、居室でゆっくり過ごして頂いたり、行事の際の声かけをして家族の絆を大切にしながら協力し合っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	墓まいり・自宅近くへのドライブ本人の希望に応じて、出かけるように努めている。	利用者の知人、友人が来訪された場合には手厚くもてなし再訪をお願いしている。利用者が住んでいた地域へドライブしたり、墓参りに付き添ったりと馴染みの関係継続を図っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の関係を職員が把握しトラブルを防ぐよう支援している。職員を介しての入居者同士の関係作りを支援している。入居者同士でカルタ取り・トランプをされたりと場面作りし会話がはずんでいる姿が良く見られる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院し退所になった場合も時々見舞いに行き関係を大切にしている。年賀状・元気まつりの案内を送るようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人、家族の意向の把握に努めている。入居者同士での会話中にできる言葉や関わりの中での表情などから希望を読み取る事に努めている。	利用者それぞれの生活暦や趣味を把握し、表情やしぐさ、利用者同士の会話の中で本人の思いを把握するようにしている	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活歴(性格・趣味・好きなこと・好きな物)を出来るだけ本人や家族から話を聞き職員間で情報を共有しケアプランに活用している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝9時にバイタル測定し利用者さまの1日の過ごし方記録を作り把握、食事、水分、排泄、入浴状況等の記録を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の思いや要望を聞き介護計画に反映させるように努め、センター方式を活用情報収集しアセスメント、カンファレンス、モニタリングを職員間で話し合いを行っている。	本人やご家族の意見を取り入れた介護計画になっており、計画の評価も毎月行なわれており、計画の評価に基づき継続や中止の判断も適正に行なわれている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに沿ってカルテに記入し、日々の様子、気づいたこと、工夫したことをノートに職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	訪問看護による健康相談を活かして受診入院の回避、早期発見の支援、GHでの生活が継続出来るよう取り組んでいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の民生委員さんの協力(お茶会)避難訓練等では地域住民、消防署に協力をしていただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望を大切にしかかりつけ医の協力のもと他科受診が必要な場合紹介状にて適切な医療を受けられるよう支援している。	通院時には情報提供票で提供しており、受診後の情報もご家族には直ちに伝えており、連絡ノートで職員間の情報の共有もされている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常変化があれば看護師に伝え相談し、かかりつけ医、協力医療機関医師等に報告し指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された場合、時々面会に行き様子を見させて頂いている。家族とも連絡をとり、早期退院出来るよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	元気な時に本人に尋ねたり、体調の変化等があればその都度、本人、家族、Dr、看護師、介護士と話し合いながらケアの方針を決めチームでケアを行っている	終末期に対する職員研修は年1回は実施しており、伝達研修もしている。利用者の自立度が低下した時点でご家族と話し合いをして意向を確認して対応している。	介護現場では看取りを行なう方向でいるようだが、施設としての終末期、看取りに対する方針が不明確な点もあるので方針の明確化を希望する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入居者の急変や事故発生時に備えてマニュアル作成、心肺蘇生法を2年に1回は行うように心がけている。内部研修でも行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練年2回以上夜間想定で職員が順番に避難を行い、地域の方にも協力して頂いている。夜間の避難訓練も行う。又、利用者やご家族に対し、文書や運営推進会議等で災害時の一時避難場所、対応等を知らせている。	各種消火施設やスプリンクラーは設置されており、避難訓練も年に2回は実施されている。米、水、缶詰、毛布等々の備蓄を行なって災害に備えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	耳でさりげなく話しかけを行うと共に、職員間での情報共有はイニシャルで本人にわからないように報告している。たよりに、意向を確認し写真等を載せないように努めている。	常に自分の立場に置き換えて考え、さりげない言葉かけを心がけている。個人情報に関する書類等事務所に保管しており又写真等家族・利用者の了解を得て掲載している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	誕生日に何が食べたいものがないか何品か選択しておきその中から本人を選んで頂いたり、入浴の際に服を選んで頂いて自己決定出来るよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様に会わせて職員が工夫しながら対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴前や外出時に服を選んで頂いたり、鏡とブラシと口紅を準備し化粧又はひげ剃りを本人に行って頂き、散髪をしたい時には業者に訪問して頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の下処理、食器洗いなど手伝って頂き、職員も同じ食事を食べている。なるべく季節にあった旬の食材を使うようにしている。	栄養士が作成した献立表を元に利用者の食べたいものや季節の食材を取入れて作成され、利用者は食材の皮むきや片付けを行っている。外食も月1~2回計画され家族も参加され楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立表を目標にしながら、入居者様の状態にあわせた食事づくり水分もこまめに飲んで頂けるよう努める。一人分のグラム数を計算している。食事量が少なく栄養が摂りにくい方には、栄養補助食品を提供。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの実施。食前、食後又は外出後のうがい、週2回義歯を洗浄剤につけている。出来ない方はクルリーナブラシで口腔内を掃除しスポンジにオーラルバランスをつけ口腔内の乾燥、感染を防いでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄時間、おむつの種類の工夫を行っている。	利用者の排泄パターンをチェック表により把握し、声掛けをして誘導している。紙パンツ・パット等利用者に合わせた物を使用し自立に向けて支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維野菜、センナ茶、乳製品、散歩、腹部マッサージ等入居者様にあわせ取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	2人介助が必要な方は、職員が協力し合い入浴時間は入居者の希望にあわせ設定している。	一人ひとりの体調や希望に合わせた回数や時間帯で入浴されている。入浴を拒む利用者には、職員の言葉かけにより入浴して頂いている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の入居者様にあわせ睡眠のバランスを考えている。日中の活動量の調整、温度、湿度調整夜間のおむつ交換の減少、側に寄りそうなど対応を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬に係る書類のファイルを事務所に保管し職員が把握出来るようにしている。誤薬がないよう職員が何度も点検し服薬の際は職員2名で本人確認し名前を復唱してから飲んで頂くよう努める。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割を持って頂き、手伝って頂いた際は感謝の言葉かけを必ず行う。(洗濯たたみ、洗濯干し、草取り、食器洗い、野菜の下処理等)		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望により個別対応している。家族と外出や外泊の支援をしている。体調不良のかたの外出が出来ない方、家族、地域の方の訪問にて交流を図る又は介助にて散歩を行う。	利用者の希望に合わせ、散歩や買い物、墓参り等に出かけており、又車椅子の利用者も自宅訪問をされている。季節に応じた外出も多く計画され、家族の方にも声掛けを行い外出支援を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者の方も小銭を管理。買い物外出など支払いを行ってもらうよう努める。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状や荷物が届いたりはがきが届いた時などお礼や電話、はがきが送れるように支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関にプランターを設置し季節の花を植えている。カーテンや立てすなどで光や温度調整にも配慮しながら生活して頂く。	開口面積を大きく取った間取りにより、自然光を取り入れ明るく安らぎが得られる空間となっている。季節に応じた花が植えられ、気持ちを和ませている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂でパズル、カルタ取り、トランプ、塗り絵など一緒に遊び笑って過ごされている光景が多く見られる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	以前使用されていたタンス、家具、家族の写真、家族からの絵はがき等を置き居心地良く過ごせるよう心がけている。	馴染みの家具が多く持ち込まれ、利用者が書いたぬり絵や書を飾り、明るく掃除も行き届いている。利用者の身体機能によりベッドの高さが調節され居心地良く過ごせるよう工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーで手すりや便所がわかるよう目印、動きがわかるよう離床センサーやもしもしホーンを設置し環境整備、転倒予防に努めている。		